

第2回検討会議の主な意見

(1)議題2(ごみの減量に関する施策)についての意見

- ごみの減量には、多くを占める生ごみの減量について考える必要がある。減量方法のひとつとして、下水処理と連携して行う方法があり、メタン発酵を行い、資源の有効活用を図ることも一考。
 - …メタン発酵については、長期的な検討が必要があると考え。他自治体の動向も注視しながら、検討していきたい。
- 生ごみを堆肥化する容器・機器を利用して堆肥化しても、その使い道がないこともある。堆肥化した肥料の買取りや希望する方へ提供可能な仕組みが必要。
 - …生ごみの減量方法は、堆肥化が考えられるが、堆肥化容器・機器の購入費補助は、利用できる市民が限定される。多くの市民の方に利用していただけるような仕組みづくりを考えていかなければならない。
- ごみ収集場所の3分の1が草木類で占有されることが多くある。草木類の減量についても考える必要がある。
 - …ごみ収集場所に排出される草木類を別途回収して堆肥化することは、コスト面、収集効率から考えても、非常に難しい。清掃センターに直接搬入される草木類については、堆肥化も考えられる。
- 様々なごみの減量に関する施策について、費用対効果などにより、優先順位をつけて、短期、中期、長期に分けて実施したらどうか。
 - …検討、実施していく施策については、有料化の実施時期を見据え、時系列順に整理していきたい。
- 現在の知多市の排出方法は、簡単である。生ごみやプラスチック類を分別することになると大変。分別ができない高齢世帯も増加している。本当にリサイクルできるものをリサイクルする程度で充分だと思う。
 - …資源の分別品目を増やすことについては、慎重に対応していきたい。

※ごみ減量等推進員制度に関連した意見

- 他自治体では、推進員制度を導入している。本市でも有料化に合わせて導入したらどうか。
- 導入するなら、分別された資源がどのように再利用・再生利用されるのかを推進員に教育するとよいのではないか。
- 分別に関する指導などを地区に任せ過ぎるのは負担が大きくなってしまう。推進員制度を上手く、活用したらどうか。
…他自治体の状況を調査し、導入を検討していきたい。

ごみ(廃棄物)減量等推進員制度

廃棄物処理法第5条の8

市町村は、社会的信望があり、かつ、一般廃棄物の適正な処理に熱意と識見を有する者のうちから、廃棄物減量等推進員を委嘱することができる。

2 廃棄物減量等推進員は、一般廃棄物の減量のための市町村の施策への協力その他の活動を行う。

⇒この法律により、各自治体で条例または要綱等で規定している。名称や活動内容も自治体ごとでさまざまであるが、主に
ごみ出しマナーの指導や助言、不法投棄、不適正排出の監視や通報を行う。

<近隣自治体の状況>

	名称	導入時期	活動内容	委嘱	人数	任期	報償
半田市	3Rアドバイザー	H5.7～	・ステーション巡回によるごみ出しマナー指導(自由参加) ・説明会、意見交換会(年2回程度)	各行政区	627名	2年	無償
東海市	3R活動地域推進員	H5.4～	・ステーション巡回によるごみ出しマナー指導(自由参加) ・説明会、意見交換会(年2回程度)	各コミュニティー	12名	1年	無償
大府市	環境美化推進員	H22.4～	・ごみの減量、資源化に関する指導(自由参加) ・環境美化に関するイベントへの参加(年数回程度) ・説明会、意見交換会(年3回程度)、活動内容の報告(月1回)	各自治区	53名	1年	60,000円/年
豊明市	廃棄物減量等推進員	H9.4 ～H25.3	・ごみ集積場、資源ごみ置場での分別指導(自由参加) ・環境美化に関するイベントへの参加(年1回程度) ・説明会、意見交換会(年2回程度)、活動内容の報告(年1回)	各行政区	250名 (H24)	2年	5,000円/年

<常滑市の状況>

- ・530とこなめ(ごみ減量化市民活動グループ)の活動
(H24.1に会員16名で発足)

<知多市の状況>

- ・資源の地域回収時に、各地区で当番者による立会い。
- ・ごみ収集場所は、地区管理(新設、移設、廃止含む)。

(2) 議題3(資源化施策)についての意見

○地域回収が平日の月1回かつ朝7時から8時であるため、参加できる人が限られてしまう。夜間出しなど、常時、資源が排出可能であれば、回収量もアップすると思う。

○夜間出しも資源の持ち去りなど問題が発生する可能性がある。地区によって実情も異なる。地区によって排出時間帯など自由に決定できる仕組みを検討したらどうか。

○飲料缶やペットボトルについては、単身の方でも気軽に排出可能なごみ収集場所での回収(ステーション回収)もよいのではないか。

○道路付きに資源回収場所があり、前日の夜から資源が排出も可能なところもある。

…地区事情や回収コストも考慮しながら、効率的な資源回収方法の見直しを検討していきたい。

○ペットボトルは子どもにとって身近な資源である。各学校と連携して、子どもたちがペットボトルを学校に持って行き、回収可能な仕組みを考えたらどうか。子どもたちへの教育にもなる。

…関係部署と調整し、学校で回収可能な資源について検討していきたい。

○ごみの減量により二酸化炭素削減量をPRすることができたら、数字により、地球環境に寄与していることを実感することができる。「報酬」というものがあると何事も取り組みやすくなる。

今回の場合、この数字が「報酬」にあたる部分になると思う。

…ごみの減量目標値設定やごみの減量による二酸化炭素削減量を推計するなどし、PR方法を工夫していきたい。

第3回検討会議(先進地視察)での主な意見

(1)視察先の家庭系収集ごみ有料化制度で有効と思われる(参考となる)制度について

- 有料化の導入だけでは、ごみの減量の効果が薄い。効果的な並行施策も必要。
- 料金体系は、「排出量単純比例型」が分りやすい。
- ごみ減量に取り組みやすくするため、ごみ袋の種類や形状も考慮する必要がある。有料化に合わせて、種類を増やすことや容量の変更など。視察先では、無駄の少ない手数料(10ℓサイズのごみ袋の販売)を設定している。
- 料金設定にあたっては、近隣自治体との均衡性を考慮する必要がある。
- ボランティアごみ、枝木、おむつなどについての手数料免除(減免)の申請方法。
(※申請により紙札(エフ)を交付。エフを付けて無料排出。)
- 旧指定ごみ袋の交換。
- 早期段階での情報開示、地区説明会等、積極的な周知啓発活動を行うことが重要。

(2)視察先のごみの減量に関する施策、資源化施策で有効と思われる(参考となる)制度について

- 100名以上のごみ減量等推進員(地域環境推進員)の活躍。本市でも導入を検討したらどうか。
- 不法投棄監視員(臨時職員)による巡回。
- ごみ・資源収集のカレンダーとごみ・資源の出しについての冊子が1本化されており、大変分かりやすい。また、冊子に広告を掲載することにより、市の歳入増につながっている。
周知啓発を工夫すれば、ごみの減量も進むと思う。
- 資源のゆくえなどを資料に分りやすくまとめており、リサイクルの必要性や良さについて理解していただくよう促している。
- ごみ収集場所を利用して資源回収を実施している。この回収方法は、利便性は高いが、コスト面の問題もあると思う。地域回収の頻度を増やすことや公共施設等を利用した常設型の回収方法など、市民目線で、回収方法を考えていただきたい。
- 義務ではないが、ごみ袋に排出者名の記入欄があり、排出者責任が明確になっている。